

生活道路対策エリアにおける 地域意見を踏まえた交通安全対策

香川河川国道事務所 交通対策課 星川 菜津美
香川河川国道事務所 交通対策課 係長 綾 早都美

香川県エリアでは、香川県交通事故対策会議を設立し、PDCAサイクルに基づく交通事故対策を推進している。その取組みの一環として、住民参加による実効性の高い生活道路対策を行うため、生活道路対策エリアである「高松市中野町地区」を対象に、ビッグデータ活用による課題抽出、地域住民等とのタウン・ミーティングによる課題共有、地域住民代表者を対象とした検討会議による生活道路対策（案）の検討を実施した。各種データ・ツールによる課題の見える化、地域住民等の実感とのすり合わせを行ったことにより、問題意識が明確化・共有でき、今後の取組みを円滑に推進できる環境を整えることができた。

キーワード 生活道路対策、住民参加、タウン・ミーティング、ビッグデータ

1. はじめに

香川河川国道事務所では、香川県エリアの交通事故抑止対策をより効果的・効率的に実施するため、主として直轄国道を対象とする対策箇所について選択と集中の観点で厳格に選定した。そしてその選定箇所の事故発生要因について調査・分析、対策の立案・実施および対策の検証・評価等を行うとともに、必要に応じ他の道路へ拡大することを目的として、H17年度に道路管理者・交通管理者・学識経験者等から構成される香川県交通事故対策会議（以下、「事故対策会議」）を設置した。事故対策会議では、県内の事故状況や特性などを客観的なデータをもとに分析したうえで、関係者が協力し、より効果的な対策を行うため、県内関係者、交通管理者、道路管理者等が意見交換しながら、香川県内の道路の交通事故抑止に向けた対策の検討や取組みを行っている。

交通事故対策の取組みが推進された結果、近年では、全国的に幹線道路事故件数が減少傾向にある一方で、生活道路の事故件数は横ばい傾向にある。特に、生活道路における歩行中・自転車乗車中の死者数の減少率が、幹線道路と比較して小さく、その対策が喫緊の課題である。

事故対策会議では、モデルケースとして、H27年度から高松市中野町地区を対象に生活道路対策の検討を進めており、H28年度にはビッグデータ及び挙動調査による課題抽出を行い、H29年度には住民参加による対策検討を実施した。

2. 背景と目的

第47回社会資本整備審議会基本政策部会（H27.4.8）に

おいて、生活道路での事故対策の重要性が示されたことから、国土交通省では、ビッグデータ等を活用して生活道路における対策を推進していくこととなった。この施策が、「生活道路対策エリア」と呼ばれる取組みである。

生活道路対策エリアは、地方公共団体が交通事故データ等を活用し、対策エリア候補を抽出し、直轄国道事務所等へ登録申請を行うことで登録される。その後は、地域協働の推進体制を構築し、PDCAサイクルに基づく事故対策を推進する取組みである。国土交通省では、ビッグデータ（生活道路事故データ・ETC2.0プローブデータ）の分析結果の提供、交通安全診断を行う有識者の斡旋など、情報提供・技術支援を行う（図-1）。

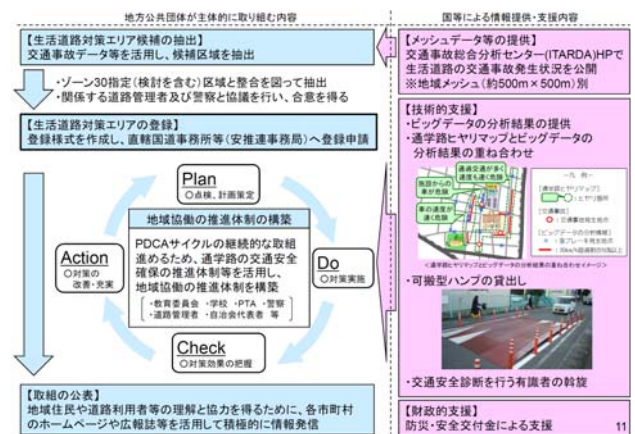


図-1 「生活道路対策エリア」の取組みフロー

これを受けて、事故対策会議では、H27年度にビッグデータである生活道路総合データベースを用いて、緊急性の高いエリア（生活道路対策エリア）の抽出を行い、高松市中野町地区を選定した（図-2）。

本稿では、住民参加による実効性の高い生活道路対

策を行うことを目的に、「高松市中野町地区」を対象に、ビッグデータ活用による課題抽出、地域住民等とのタウン・ミーティングによる課題共有、地域住民代表者を対象とした検討会議による生活道路対策（案）の検討を実施した取組み内容について述べる。

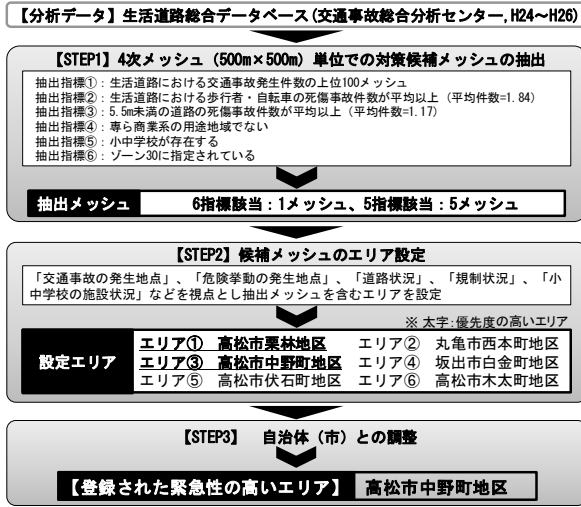


図-2 香川県における緊急性の高いエリアの選定フロー

3. 高松市中野町地区の概要と課題

(1) 高松市中野町地区の概要

本稿の対象地区である「高松市中野町地区」は、高松市中心部に位置し、国道11号(中央通り)、県道33号高松善通寺線、紫雲山・栗林公園に囲まれ、石清尾八幡宮の参詣道である八幡通り(高松市道馬場町田線)が東西を貫通するエリアである(図-3)。

対象地区内は、高等学校等の教育施設が多数立地しており、香川県庁や香川大学が周辺に立地するため、朝夕には歩行者・自転車の通行が多い。これに関連して、地区内では、自転車関与事故や交差点部事故が多発しており、生活道路対策の実施が求められていた。



図-3 高松市中野町地区の位置

(2) 高松市中野町地区の課題

a) 交通事故発生箇所・発生状況

生活道路事故データベース(交通事故総合分析センター)によると、高松市中野町地区では、H25-H28の4年間で53件の死傷事故が発生し、自転車関与事故がその約6割を占める。また、自転車関与事故の発生位置は、交差点部に集中している。(図-4)



資料:生活道路総合データベース(H25~H28)

図-4 高松市中野町地区における交通事故発生箇所

b) 走行車両の急ブレーキ多発箇所

ビッグデータであるETC2.0プローブデータの挙動履歴データを用いて、ヒヤリハット事象である急ブレーキの発生状況分析を行った。その結果、高松市中野町地区では、地区内を東西に貫く八幡通りにおいて急ブレーキが多発していること、四国管区警察局付近、四国財務局東側、国道11号に接する交差点部において、急ブレーキが多発していることが分かった。

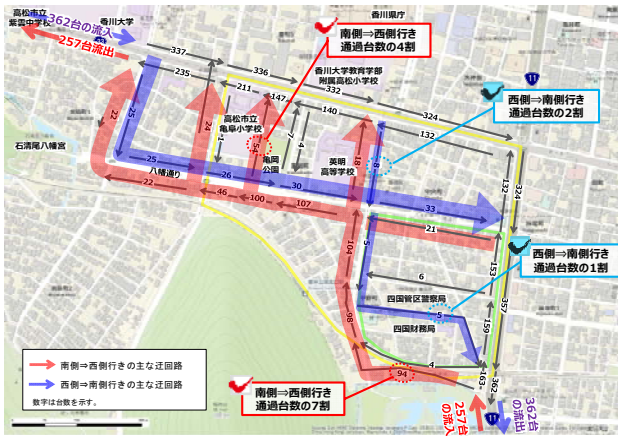


資料:ETC2.0プローブ(挙動情報),H28.4~H29.3 平日(7時~19時)

図-5 高松市中野町地区における急ブレーキ多発箇所

c) 抜け道利用の状況

ビッグデータであるETC2.0プローブデータの挙動履歴データを用いて、高松市中野町地区の抜け道利用の実態分析を行った。西側から南側への抜け道利用については、約1割の車両が、四国管区警察局前の細街路を利用して、南側から西側への抜け道利用については、約4割が亀阜小学校東側の細街路を利用している。



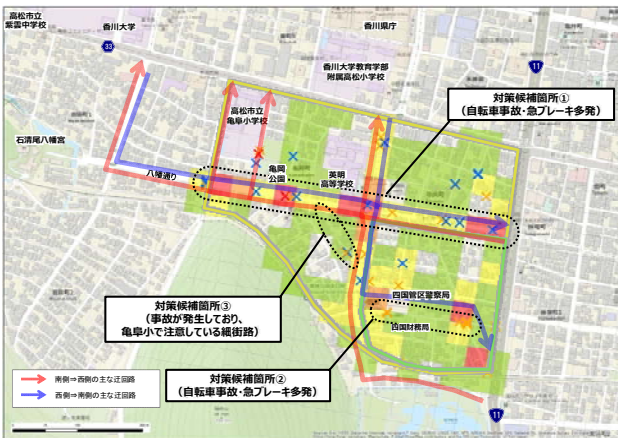
資料：ETC2.0プローブ(挙動情報), H28.4~H29.3 平日(7時~19時)

図-6 高松市中野町地区における通過車両の経路分析

(3) 対策候補箇所の抽出

地区内全ての箇所について、一度に対策を行うことは整備費用・スケジュールの観点から現実的でないため、データ分析結果及び現地踏査結果を踏まえ、以下のとおり、対策候補箇所の絞り込みを行った。

- 箇所①：八幡通り(自転車事故・急ブレーキ多発)
- 箇所②：事故・急ブレーキが多発している細街路
- 箇所③：事故発生し、亀阜小で注意している細街路



資料：ETC2.0プローブ(挙動情報), H28.4~H29.3 平日(7時~19時)

図-7 高松市中野町地区における対策候補箇所の選定

4. 住民参加による対策検討

(1) 住民参加による対策検討スキーム

H28年度の事故対策会議での議論において、学識者より、「生活道路対策において重要なことは安全性と利便性の選択。どちらに重きを置くのかを、地域の方に委ねるためにも、適切な情報提供が必要。」との意見があり、単なる地元説明会に留まらず、地域住民自身が課題解決に向けて考えてもらえるような検討スキームを構築する必要があった。

これを念頭に、H29年度は図-8に示す検討スキームを構築し、地域住民等と課題共有を図りながら、生活道路対策を検討することとした。

中野町地区タウン・ミーティング (現地見学会) [H29.11.26]

- 中野町地区の住民によるタウン・ミーティングを開催し、対策(案)に関する地域住民からの意見を収集

・ニュースレター配布

中野町地区検討会議の開催 [H30.1.26]

- タウン・ミーティング結果を踏まえて修正した対策(案)について、中野町地区の住民代表による検討会議を開催し、対策(案)に関する地域住民からの意見を収集

・ニュースレター配布

生活道路対策箇所における対策 (案)の見直し

図-8 住民参加による生活道路対策の検討フロー

(2) 中野町地区タウン・ミーティング

a) 開催概要

タウン・ミーティングは、以下の要領で実施した。

a) 日時

- ・平成29年11月26日(日) 9:30~12:00

b) 場所

- ・ルポール讃岐 会議室

c) 参加者

- ・亀阜校区コミュニティ協議会
- ・地区内自治会(なかよし会、たつみ会、五月会、愛友会、公友会、中央町南部)
- ・亀阜小学校教諭、亀阜小学校PTA、亀阜小学校育成会
- ・英明高校教諭・生徒
- ・香川大学学生

d) 関係機関

- ・香川県タクシー協同組合
- ・香川県警察本部
- ・香川県
- ・高松市【事務局】
- ・国土交通省四国地方整備局【事務局】

b) 開催にあたっての工夫

タウン・ミーティングでは、まず、事務局(香川河川国道事務所)より、地区内の事故・急ブレーキ発生状況など、客観的データから見られる地域の課題説明を行った。その後、参加者及び関係機関を3グループに分け、対策候補箇所を現地見学したうえで、白地図等を囲みながら意見交換(ワークショップ)を行った。

現地見学会にあたっては、データからみた課題箇所を直感的に把握できるよう、ヒヤリハットマップを作成した(図-9)。また、参加者に生活道路対策の対策イメージを持ってもらうため、全国の整備事例を整理した生活道路対策ハンドブック(A5版)を作成し、参考資料として配付した。さらに、会場において四国地方整備局が保有する可搬式ハンプの展示も行った(図-10)。

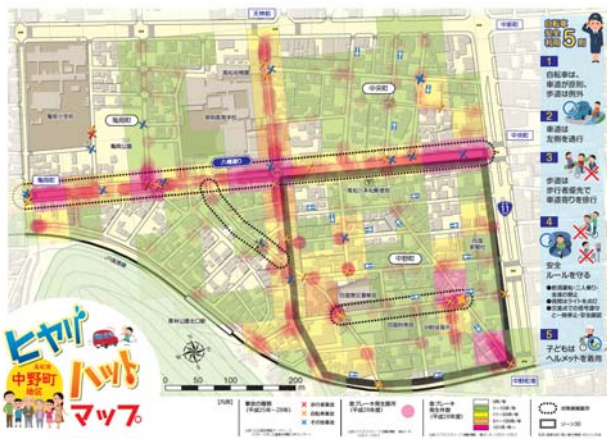


図-9 高松市中野町地区ヒヤリハットマップ



図-10 可搬式ハンプの展示

なお、タウン・ミーティングに参加できなかった地域住民にも情報提供を図るため、ニュースレターの作成・配布を実施している。

c) 得られた成果

意見交換（ワークショップ）では、「地区内は、通勤・通学の自転車のスピードが速い」、「違法駐車が多く、道路脇を歩きにくい」といった意見が出され、道路管理者・交通管理者に対策を求める声も挙げられた。その一方で、自分たちの交通マナーの悪さを指摘する意見も見られ、管理者任せで解決しない問題があることの指摘もあった。

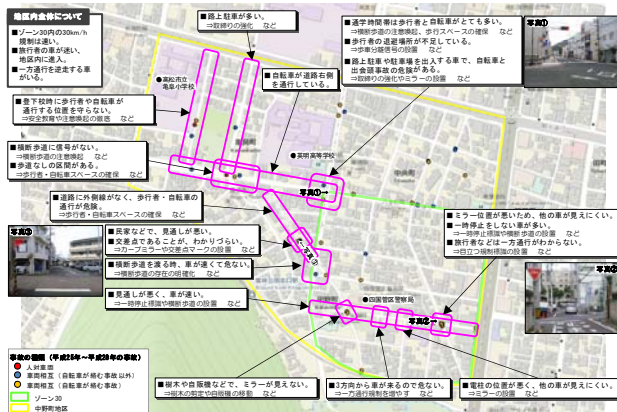


図-11 タウン・ミーティングでの主な意見

(3) 中野町地区検討会議

a) 開催概要

検討会議は、以下の要領で実施した。

- a) 日時：平成30年1月26日（金） 10：00～11：30
- b) 場所：亀阜コミュニティセンター 小会議室
- c) 参加者【地域住民代表者】
 - ・亀阜校区連合自治会
 - ・地区内自治会（たつみ会、貝の口親睦会）
- d) 関係機関
 - ・香川県警察本部
 - ・香川県
 - ・高松市【事務局】
 - ・国土交通省四国地方整備局【事務局】

b) 得られた成果

タウン・ミーティングでの意見を踏まえて検討した生活道路の事故対策案について、地域住民の方の視点によるご意見を頂き、事故対策方針の共有を行った。

意見交換の中では、高校生のマナーの悪さなどの指摘がある一方で、マナーを遵守する高校生の取り組みを褒める意見もあり、地域住民の中にも交通安全に対する意識改革（気づき）が見られる場面もあった。



図-12 高松市中野町地区における生活道路対策の方針

5. まとめと今後の展開

「高松市中野町地区」を対象に、ビッグデータ活用による課題抽出、地域住民等とのタウン・ミーティングによる課題共有、地域住民代表者を対象とした検討会議による生活道路対策（案）の検討を実施した。

ビッグデータを活用し、地区内の課題を見える化したうえで、タウン・ミーティングにおける現地見学会により、地域住民等と課題の共有を図ったことで、道路管理者・交通管理者任せではなく、地域住民自らが課題解決に向けて考える契機となったと考えられる。

今後、各道路管理者・交通管理者により着実な生活道路対策を推進し、対策の効果検証を行っていくが、今回の中野町地区での取り組みをモデルケースとして、他地域の生活道路エリアにおいても参考とできるよう、展開していきたい。